

木オだよソ

社会福祉法人 東香会
しぜんの国保育園 small village

July 2023



法人理念
いきいき

- 子どもの成長・発達・生活に寄与する人はすべて保育者
- 永続的な暮らしを目指し、物質と事象と生命との関係性を深める
- 地域で安心して子育てができるように

7月主題 太陽のまなざし 半夏生のいろ

今月の主題の中にある「半夏生」という言葉。築田寺に咲いている植物でもありますが、夏至から数えて11日目となる7月2日頃から、七夕に至るまでの5日間の時期も「半夏生」と呼ばれています。今年の場合は7月2日から7月6日が半夏生となりますね。

おおよそ1年の間の半分に当たるこの時期、この半夏生も半分白、半分緑に色づき、日本の四季のうつろいや物語に心を寄せています。

先日、けやき組のお泊まり保育が無事に終わりました。しぜんの国のお泊まり保育は、築田寺で行います。その時にお寺の門は踏まないという話を副住職である絃良さんにしてもらいました。お寺の門、つまり外とうちの境界には敷居があって、そこを踏んで通るのではなく「またいで」通ることが大切だと教えてもらいました。（私の解釈だと、自らくぐっていくというようなイメージを持っています）

私も子どもたちや保育者に、お寺は親しみのある場ではあるけれど場の主体というものが存在していて、その場を大切にしたい気持ちを持って、つまり思いやりを持って場に入って欲しいという話をしています。

楽しく過ごした後は、掃除も一緒にします。もしかしたら厳しいと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、お寺でお泊まりをするにあたり、最後の掃除は、とても大切。しっかり掃除の仕方を伝えます。場を整えることを「ルール」として伝えるのではなく、大人も一緒になって取り組みながら「暮らし」を手渡していく機会かなと考えています。



園長 齋藤美和

じむしょ 小窓 だより

新学年が始まり3か月がたちました。コロナ禍もあけ、今年は部活やクラス、チームでクッキングも盛んに行われています。暑い夏はやはりパフェやゼリーが子どもたちに人気です。何をつくろうか？何味にしようか？子どもたちとセッションしながらクッキングの計画は立てられていきます。給食職員にとってクッキングの時間は子どもたちと一緒に過ごせるとても貴重な楽しいひと時です♪

先週末にはけやき組のお泊り会が行われました。お泊り会の日の献立は毎年すべてけやき組の子どもたちがセッションで決めていきます。お昼の給食、おやつ、夕飯、朝ごはん。けやき組の子どもたちにとって特別な1日になるよう、私たちもいつも以上に力が入る日です。夜ごはんには子どもたちお手製の旗やポテトの入れ物、朝ごはんのふりかけももちろん子どもたちの手作りです。ふりかけに入る桜の塩漬けも春にお寺で収穫した八重桜の塩漬けが入っていたり、みそ汁の味噌もかえで組の時に仕込んだ味噌を使っています。大人達だけがセッティングしたお泊り会ではなく、子どもたちが皆でセッションして一から作り上げていくのがしぜんの国のお泊り会です。

ぐっすり眠り、目覚めた子どもたちは朝食を食べながら、「ぼくたちのチームのふりかけは海苔と桜の塩漬けが入っているんだよ」・・・と話しながら嬉しそうに食べていました。自分たちで考え作り上げたお泊り会、とても誇らしそうな子どもたちの顔が印象的でした。今年も子どもたちとともに楽しめるクッキングやお給食をたくさん作っていきたいと思います。

キッチンマネージャー 三木

村の春夏秋冬

～特別編・理事長からの手紙～

こんにちは、理事長の齋藤紘良です。

毎日の保育でやってみたいことが一つあります。園庭で裸足でも遊べること。裸足は気持ちが良く、身体を動かしやすく、そして足下から入ってくる大地の情報をたくさん得ることができます。僕が子どもだったらすぐに裸足になりたいし、大人として生活するいまでも事あるごとに裸足になります。僕がかつて園長だった頃、裸足について相談した保育者から「怪我するんじゃないか」「保護者から不安が出るんじゃないか」「汚れを拭き取るのに保育が煩雑になるんじゃないか」という意見が被さりうやむやになってしまったのですが、今のsmall villageだったらみんなで話し合って不安を乗り越えられる気がします。

当然、何か固いものを踏んで怪我する危険は靴よりも上がるでしょうし、足の汚れは増すと思う。ネガティブな要素は最初に浮かんでくる。でも、乳幼児期の今だからこそ裸足で生活しながら自分で危険を回避

するようになっていける貴重な経験を得ることができるし、小学校に行ったら得られない経験。

汚れは習慣さえ整えば子ども自ら拭くようになっていく。要は、大人がなんでもしてあげるのではなくて子どもが自分で自分の生活を作り上げることが大切。だからこそ、僕はやっぱり園庭を裸足で遊べるような保育で悩んでみたいのですが、みなさん、どう思いますか？



保育者 リレー エッセイ

今月の担当は子育て広場としぜんの国食堂の柴田伸子さんです。

【とってもアクティブでいつも明るい笑顔でみんなを元気にしてくれる柴田さん！その元気の秘訣は何ですか？お休みの日はいつも、お出掛けしていると伺っていますが、1番良かった場所はどこですか？また次に行きたいところはありますか？】

立花さん、ひっそりと暮らしていたかったのにご指名いただきありがとうございます。
先日ひじき煮を給食で食べました。過去20年を超える給食歴の中でも ぴかーに美味しいひじき煮で、思わず給食室のドアを開けて、「誰が作ったんですか？ 今までで一番美味しいひじき煮～」と叫んでしまいました。手を挙げたのは立花さん！ 私と違い控え目だけれどきらっと光る感性やセンスが素敵でいつも尊敬しています。

アクティブで元気と良く言われますが、私、そんなに元気でしょうか？

だとしたら、保育園に勤めているからだと思います！ 小さな人が保育園で安心して居場所を見つけ遊び込んでいる様子やお父さんやお母さんが、お仕事や家事との折り合いをつけて、子どもを送り迎えにきている優しい姿を毎日見られて 気持ちの栄養補給をさせていただいています。また、しぜんの国には、木々や野鳥 風や光があり 気分はいつもリフレッシュです。保育士になっていく若い職員も大好きで、すれ違いざまに思わず声をかけてしまいます。家族よりも、人生のゴールデンタイム(日中)と一緒に過ごす人たちと楽しくやっぴいこう！ がにじみ出ていますか？

休日もちこち出かけていますが、主に日本のどこかの森や林を歩きたいと思っています。大きな休みは、家族と東海道五十三次を歩いています。日本橋から始まり、現在、静岡の掛川まで来ました。茶畑の間を通り、難所といわれている坂を転がり落ちるように歩く。歩いてみないとわからないことが多く、昔の人の旅の苦労や時間の駆け方に驚いています。お茶工場で手摘みの新茶をふるまってもらい、江戸時代から食べられていたお菓子や名物も体験していきます。夜はその土地の日本酒を飲み、土地の物を食べ、地元の方とお話するのがとても嬉しいです。地方に根付いている文化を知る事はとても元氣になります。日本は広いな、奥深いな、これを絶やしてはいけななと思うこの頃です。 東海道が終わったら、四国のお遍路さんをやりたい！ 熊野古道も行きたい！ です。情報のある方は是非教えてください。

今回は・・・次回は山崎彩加さん！ 私にない、静かなたたずまい。興味津々でしつこいくらい声をかけています。特別なリラックス方法や 町田でお気に入りの場所などありましたら教えてください。いつか一緒に行きましょう！

かみじま のんびり 漫画劇場

「 みんなでじゃがいも掘り 」

文・絵 かみじま たるひ



INFO

たるおじさんの紙しばい新作「どうぶつさん」YouTubeにて公開！

<https://www.youtube.com/watch?v=EUfgsOWI6Y4>